

## 第十一部 イスラエルの贖いと回復

イザヤ 40 章～66 章

## □ 第十一部のアウトライン

- |                        |                |
|------------------------|----------------|
| A) プロローグ               | 40 章 1～11 節    |
| B) <b>イスラエルの苦難は終わる</b> | 40 章 12 節～48 章 |
| C) イスラエルの罪は償われている      | 49 章～57 章      |
| D) イスラエルは二倍のものを受けている   | 58 章～66 章      |

## □ 「B) イスラエルの苦難は終わる」のアウトライン (イザヤ 40 章 12 節～48 章)

1. 主の偉大なること、比べるものなし (40 章 12 節～31 節)
2. 偶像を裁く (41 章)
3. 主のしもべ (42 章)
4. バビロンからの解放 (43 章 1 節～44 章 5 節)
5. 偶像崇拜の愚かさ (44 章 6 節～23 節)
6. バビロン捕囚からキュロス王による解放 (44 章 24 節～45 章 25 節)
7. バビロンとその偶像たちに対するさばき (46 章 1 節～47 章 15 節)
8. 預言を受けるイスラエル民族への主の要求 (48 章)

## □ 「3. 主のしもべ」のアウトライン (イザヤ 42 章)

- a. 主のしもべの紹介 (1～4 節)
- b. 主のしもべに対する神の約束 (5～9 節)
- c. イザヤが神にささげる賛美の歌 (10～13 節)
- d. 新しい預言 (14～17 節)
- e. イスラエルの盲目ぶり (18～22 節)
- f. イスラエルに対するさばき (23～25 節)

## B) イスラエルの苦難は終わる

### 3. 主のしもべ (42 章)

#### a. 主のしもべの紹介 (1~4 節)

1 節 「見よ。わたしが支えるわたしのしもべ、わたしの心が喜ぶ、わたしの選んだ者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は国々にさばきを行う。

- ① わたしのしもべ・・・「わたし」とは、預言者イザヤではなく、主（ヤハウェ）。「わたしのしもべ」、すなわち「主のしもべ（ヤハウェのしもべ）」とは、メシアを指す。旧約聖書の中に記される多くのメシア呼称のひとつである。旧約聖書の預言では、メシアは 2 回来る。

イエスはご自分の使命を「仕える」と言われた。これは 1 回目のメシアの使命。マタイ 20 : 28 人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい。

使徒パウロは、イエス・キリストについて、「しもべの姿をとり」と言った。ピリピ 2 : 6~8 キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。

- ② わたしの心が喜ぶ

イエスが洗礼を受けたとき、天からこのことばが響いた。

「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」（マルコ 1 : 11、ルカ 3 : 22、マタイ 3 : 17）

- ③ わたしの選んだ者

使徒ペテロはイエス・キリストについて、「神に選ばれた」と言った。

I ペテロ 2 : 4 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが神には選ばれた、尊い生ける石です。

- ④ 彼の上にわたしの霊を受け・・・メシアの上に神の霊がとどまる。

イザヤは前にも、次のように預言した。

11：1～2 エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。  
その上に主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、思慮と力の霊、主を恐れる、知識の霊である。

イエスが洗礼を受けたとき、神の霊がイエスの上に降って来られた。

マタイ 3：16 イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。

- ⑤ 彼は国々にさばきを行う・・・メシアは、地上にメシアの王国を建て、全世界の王となる。諸国民に向けてメシアの王国の法令を發布し、その法令に基づいて裁判を行い、地上に正義と平和を確立する。

イザヤは、前にも次のように預言した。

イザヤ 2：2～4 終わりの日に、主の家の山は山々の頂に堅く立ち、もろもろの丘より高くそびえ立つ。そこにすべての国々が流れて来る。多くの民族が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてくださる。私たちはその道筋を歩もう。」それは、シオンからみおしえが、エルサレムから主のことばが出るからだ。主は国々の間をさばき、多くの民族に判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。

これは、2 回目に来るときのメシアの使命である。

#### 1 節のポイント

「主のしもべ」の紹介として、

①から④は 1 回目のメシア、⑤は 2 回目のメシア

2 節 彼は叫ばず、言い争わず、通りでその声を聞かせない。

- 通りでその声を聞かせない・・・メシアは路傍伝道をしな。この点は、使徒たちの働きとは異なる。メシアの任務遂行の特徴は、静粛であること。そのようなイエスの行動パターンを説明して、マタイ 12:15~21 では、このイザヤの預言（42 章 2~4 節）が引用されている。

3 節 傷んだ葦を折ることもなく、くすぶる灯芯を消すこともなく、真実をもってさばきを執り行う。

- 傷んだ葦を折ることもなく、くすぶる灯芯を消すこともなく・・・苦しんでいる人々をさらに押しつぶすようなことはしない。イエスは、そういう人たちをやさしく受け入れ、癒やした。

4 節 衰えず、くじけることなく、ついには地にさばきを確立する。島々もおしえを待ち望む。」

- 衰えず・・・メシアは失敗しない
- くじけることなく・・・メシアはつぶされない
- ついには地にさばきを確立する・・・2 回目に来て、地上に正義を確立する。1 節の⑤である。
- 島々もおしえを待ち望む・・・離島の人々もメシアの王国の法律が発布されることを待望する。世界の隅々までも、ということ。

2~4 節のポイント

「主のしもべ」の紹介として、

2 節と 3 節は 1 回目のメシア、4 節は 2 回目のメシア

## b. 主のしもべに対する神の約束 (5～9 節)

5～6 節 天を創造し、これを延べ広げ、地とその産物を押し広げ、その上にいる民に息を与え、そこを歩む者たちに霊を授けた神なる主は、こう言われる。

「わたし、主は、義をもってあなたを召し、あなたの手を握る。あなたを見守り、あなたを民の契約として、国々の光とする。

- **神なる主**・・・「神」とは、人間とは区別されるべき聖なる方であるという意味。「主 (ヤハウェ)」とは、人と契約を結び、その約束を必ず守る真実な方であるという意味。「主 (ヤハウェ)」とは、一言で言えば、「契約の神」
- **民の契約として**・・・「民」とはイスラエル。「民の契約とする」とは、神がイスラエルの民と結んだ契約の仲介者として、メシアを遣わす、ということ。その契約とは、創世記で神がアブラハムと結び、その子イサク、その孫ヤコブ、そしてヤコブの 12 人の息子たちから発したイスラエル民族へと継承された契約、「アブラハム契約」である。
- **国々の光とする**・・・国々とは、イスラエル民族以外の諸国民。メシアは諸国民にとって光となり、希望となる。アブラハム契約の中の 3 つ目の約束「祝福の約束」は、イスラエル民族だけでなく、諸国民も対象である。
- アブラハム契約の「祝福の約束」の中核は、**死からの復活**。そのためには、人を、死の原因である罪から解放する必要がある。主がイスラエル民族を罪から解放するという契約が、これから与えようとされている。この契約は、イザヤ 42 章の時点では、まだである。この後の預言で登場する (イザヤ 54 : 10 「平和の契約」、61 : 8 「永遠の契約」)。イザヤより後代の預言者もこの契約について語る。預言者エレミヤが「新しい契約」(31 : 31～34)、預言者エゼキエルが「永遠の契約」(16 : 60) として預言する。

7 節 こうして、見えない目を開き、囚人を牢獄から、闇の中に住む者たちを獄屋から連れ出す。

- アブラハム契約の「祝福の約束」そして「新しい契約」の中核は、死からの復活である。そのために、人を罪から解放する必要がある。
- よって、メシアの使命は、「見えない目を開き、囚人を牢獄から、闇の中に住む者たちを獄屋から連れ出す」ことである。
  - 目が見えない＝罪の性質によって霊的に死んだ状態になっていて、神を認めず、神の救いを求めようもしない状態
  - 囚人＝罪の性質の奴隷となり、正しいことをできない状態。不義と汚れの中に落ちこんでいる状態
  - 闇の中に住む＝サタンに支配され、死の恐怖の中で暮らしている状態

8～9 節 わたしは主、これがわたしの名。わたしは、わたしの栄光をほかの者に、わたしの栄誉を、刻んだ像どもに与えはしない。初めのことは、見よ、すでに起こった。新しいことを、わたしは告げる。それが起こる前にあなたがたに聞かせる。」

- 初めのことは、見よ、すでに起こった・・・アッシリアが攻めて来た。しかし、エルサレムを包囲したアッシリア軍は一夜にして壊滅した。イザヤの預言のとおりとなった。
- 新しいこと・・・近い将来のバビロン捕囚からの解放、遠い将来の大患難期でのイスラエルの最終的解放

c. イザヤが神にささげる賛美の歌（10～13 節）

10～13 節 新しい歌を主に歌え。その栄誉を、地の果てから。海に下る者、そこを渡るすべての者、島々とそこに住む者よ。荒野とその町々、ケダル人が住む村々よ、声をあげよ。セラに住む者たちは喜び歌え。山々の頂から声高らかに叫べ。主に栄光を帰せよ。島々にその栄誉を告げ知らせよ。主は勇士のように出で立ち、戦士のように激しく奮い立ち、ときの声をあげて叫び、敵に向かって力を見せつける。

d. 新しい預言（14～17 節）

14～17 節 「久しく、わたしは黙っていた。静かにして自分を抑えていた。今は、子を産む女のようにうめき、激しい息づかいであえぐ。わたしは山や丘を荒らし、そのすべての青草を枯らし、川を中州ばかりにし、沢を涸らす。わたしは目の見えない人に、知らない道を歩ませ、知らない通り道を行かせる。彼らの前で闇を光に、起伏のある地を平らにする。これらのことをわたしは行い、彼らを見捨てはしない。彫像に拠り頼み、鑄像に向かって『あなたがたこそ私たちの神々』と言う者は、退けられて恥を見る。

## e. イスラエルの盲目ぶり (18～22 節)

18～22 節 耳の聞こえない者たちよ、聞け。目の見えない者たちよ、目を凝らして見よ。わたしのしもべほど目の見えない者が、だれかほかにいるだろうか。わたしが送る使者ほど耳の聞こえない者が、ほかにいるだろうか。わたしと和解した者のような目の見えない者、主のしもべのような目の見えない者が、だれかほかにいるだろうか。あなたは多くを見ながら、心を留めない。耳が開いているのに、聞こうとしない。」

主はご自分の義のために望まれた。みおしえを広め、これを輝かすことを。

しかし、これは、かすめ奪われ略奪された民、彼らはみな穴の中に <sup>おとし</sup> 陥れられ、獄屋に閉じ込められた。かすめ奪われても、助け出す者はなく、略奪されても、返せと言う者もない。

- 主のしもべ・・・ここは、イスラエル民族を指す。イスラエル民族が第一番目の主のしもべ、メシアは2番目の主のしもべ。イスラエル民族は失敗するが、イスラエル民族の代表として立てられたメシアは、主の使命を達成する。

## f. イスラエルに対するさばき (23～25 節)

23～25 節 あなたがたのうち、だれがこれに耳を傾け、後々のために注意して聞くだろうか。だれがヤコブを、奪い取る者に渡したのか。イスラエルを、かすめ奪う者に。それは主ではないか。私たちはこの方の前に罪ある者となり、主の道に歩もうとせず、そのおしえに聞き従わなかった。そこで主は、憤ってこれに怒りを注ぎ、激しい戦いをこれに向けた。それがあたりを焼き尽くしても彼は悟らず、自分に燃えついても心に留めなかった。

- 奪い取る者、かすめ奪う者・・・バビロン

⇒ B. 4 「バビロンからの解放」の預言に続く